



05

車体から外れたキャリパーから、まずはブレーキ鳴き防止のシムを外します。このシムはひとつのピストンにつき1枚ずつ装着されています。



03

次にパッドを外します。パッドの残量はまだまだかなりありました。よって今回はパッドの交換は見送ることに。



02

オーバーホールするためにはキャリパーを外すことが必要。まずはパッドの交換時期を知らせてくれるセンサーを外してしまいます。



01

今回キャリパーのオーバーホールを担当してくれたのは前回のダンパー交換時同様、大橋松典さん。メカニック歴30年ほどのベテランです。



06

964のフロントキャリパーは4ポッド。つまりひとつのキャリパーにつきピストンが4つあります。その4つのピストンをこのように出します。



04

キャリパーを固定しているのは内側にある2本のボルト。それを外すだけでこの通りキャリパーが外れました。



過去の整備記録が写真付きでしっかり残されており、信頼できることから試乗・商談の末に964カブリオレを即決購入したスピードジャパン小澤社長。前回はダンパーをビルシュタインの新品に交換。いよいよ機関係のリフレッシュに着手した。今回は足回り同様に重要なブレーキキャリパーのOHを敢行!

ポルシェ964カブリオレMT車 Vol. 新車に戻すぞ How Much!

文●加賀啓伺 撮影●益田和久
取材協力●スピードジャパン (tel:03-3555-8865 <http://www.speedjapan.co.jp/>)
ナガセ自動車 (tel:052-361-6270 <http://www.nagase-jidosya.co.jp/>)

さすが堅牢なポルシェのブレーキ それが分かったただけでも収穫有り!

ダンパーをビルシュタインに交換し、いよいよ本格的に走る体制が整った964カブリオレ。とくれば次なるリフレッシュ箇所はブレーキだ。

この個体は90年式だから製造からすでに23年が経過している。さらに走行距離は10万5000km以上。効きやコントロール性に関しては正直問題ないし、ブレーキペダルを踏んだ時に違和感を感じることもないけれど、予防整備ということでブレーキキャリパーのオーバーホールをすることになった。

持ち込んだのは今回もポルシェやメルセデス・ベンツの整備に定評がある名古屋のナガセ自動車だ。

今回、スピードジャパン小澤社長がチョイスしたのは信頼性が高いポルシェ純正のシール類。せっかくブレーキフルードを抜くのだし、ブレーキ周辺をバラすのだから併せてブレーキホースも新品に交換した。こちらはポルシェの純正パーツ同様、信頼性が高く、純正より安価なATE製だ。

90年式のこのカブリオレのキャリパーは、同年式のカレラ2同様フロントが4ポッド、リアが2ポッド。どちらもブレンボのアルミ製だ。

スチール製のキャリパーだとキャリパーの内側、ピストンが収まる部分が錆び、それが原因となってピストン自体やスリーブにキズが付いてしまうことがある。その結果、ピストンの動きが悪くなり、ペダルフィーリングの悪化に繋がるし、また、ピストンが固着したりといったケースもあり得る。

しかしさすがブレンボ、そしてポルシェのブレーキ。錆びはまったくなく、良い状態をキープしていた。精度が高く、そもそもアルミ製だから錆びも発生しないのだろう。もちろん軽くして走行性能を上げたいというメーカーの狙いもあるのだろうが、安心して長く楽しめるということにも繋がっているのがうれしい。

作業が終わって早速試乗。「エア抜きしただけでも随分フィーリングが違って変わりますよね。だからキャリパーのオーバーホールで変わったとは断言できなくても、良いフィーリングです。節度感がアップしました。964の新車を体験してないけれど、これなら新車に近い状態なんじゃないかな」と小澤社長。会社のスタッフが「乗りたい」という時も、より安心してクルマを預けることができるようになった。

ちなみにオーバーホールキットのパーツ代金は意外なほど安価。しかもスピードジャパンで購入すればさらにリーズナブル。さらにナガセ自動車の工賃も良心的。ここまでやればまた何年かは安心してドライブできるのだから、ちょっと古いクルマに乗っている人、前オーナーがオーバーホールしたかどうか不明……なんて人には是非キャリパーのオーバーホールをオススメしたい。

今回は足回りのブッシュ類のリフレッシュに着手予定。レザーシートの擦れやヒビ割れも気になるところだが、機関を全般的にリフレッシュし終えてから外装、そして懸案のシートを含めたインテリアに取り掛かるつもりだ。

20



キャリパーをオーバーホールする時にホースもセットで交換しておけばフルド代や工賃がダブルで掛からないためお得。元々付いていたホースを外します。

15



グリスを塗ったシールをキャリパー内部に装着してからピストンを組み込んでいきます。4つともピストンを装着したら完成です。

10



エアで水を吹き飛ばし、完全に乾燥させます。さらにブレーキクリーナーを使って脱脂します。

07



キャリパーとピストンの間を埋めるブーツを4ピストン分全て外します。

21



今回はATE製のブレーキホースをチョイスしました。

16



完成したフロントキャリパー。リアキャリパーも同様にオーバーホールします。964前期型のリアキャリパーは2ポッド。92年式から4ポッドになります。

11



今回使ったのはこれだけのパーツ。フロント用、リア用それぞれのリペアキット(オーバーホールキット)とフロント用、リア用の新品ホースです。

08



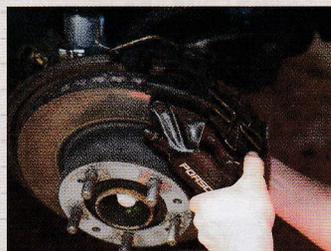
キャリパーの内側に付くシールも4ピストン分全て外してしまいます。ブーツもシールももちろんゴム製です。

22



4輪ともキャリパーを装着したらエア抜きをして完成。もうひとりのメカニックがペダルを踏み、大橋さんがブリーダープラグを緩め、閉めを繰り返します。

17



キャリパーのオーバーホールが終わったら取り外したの逆の手順で組み込んでいきます。鳴き防止のシムを装着してからキャリパーを車体に組み込みます。

12



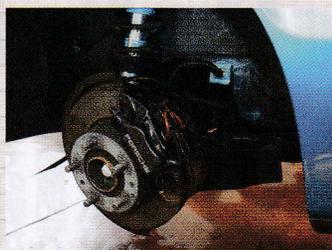
これがひとつのピストンあたりのリペアキットの内容。964のキットはピストンまで新品交換するタイプでした。ゴム製パーツは手前がシール、左奥がブーツ。

09



ブーツとシールを外したキャリパーを洗浄します。ピストンが収まる部分に錆びやキズがないかを確認しながら内側も入念に洗います。

23



オーバーホールしてみた結果、全く問題は発見されませんでした。ボルシェの質実剛健な作りが証明されたブレーキキャリパーのオーバーホールでした。

18



パッドのエッジ部分にグリスを塗ってからキャリパーに装着します。

13



組み込む前に外したパーツとこれから組むパーツの直径や幅が同一かどうか確認します。下がもともと付いていたシール、上が新品。

19



パッドの残量を知らせるセンサーも組み込みます。

14



新品のピストンに新品のブーツを組み込み、同梱されていたグリスをピストンの周囲に塗ります。

【今月の作業代】

●パーツ代(定価 → SU価格 / いずれも税込)

フロントキャリパーリペアキット40mm	3,045円×4	→ 2,740円×4
フロントキャリパーリペアキット36mm	2,625円×4	→ 2,362円×4
リアキャリパーリペアキット	5,407円×4	→ 4,866円×4
フロントブレーキホース(ATE製)	10,132円×2	→ 5,137円×2
リアブレーキホース(ATE製)	10,710円×2	→ 4,473円×2
ブレーキフルード (ATEスーパーブルーレーシング)	1,995円×2	

●工具

キャリパー脱着(フロント)	10,500円(左右)
キャリパー脱着(リア)	10,500円(左右)
シール交換(フロント)	8,400円×2(左右)
シール交換(リア)	6,300円×2(左右)
ホース交換(1輪あたり)	2,625円×4(フロント/リア左右)
ブレーキフルード交換	3,990円

●合計

128,072円

※SU=スピードジャン

担当SHOP



ナガセ自動車

本店:新車中古車センター
名古屋市中川区昭和橋通6-33
tel:052-361-6270
サービス工場
名古屋市中川区昭和橋通6-33
tel:052-361-6271
飛島店
海部郡飛島村大字梅之郷字宮東9番
tel:05675-2-1300

ナガセ自動車は、ヒュンダイ、三菱自動車、メルセデス・ベンツ、BMW、ボルシェなどの新車・中古車販売と自動車修理、自動車保険、板金、塗装など様々な商品とサービスを提供しているプロショップ。国道1号線を名古屋方面から蟹江方面に向かい、庄内川約2km手前の国道線沿いの北側。「ナガセ自動車」の大きな看板が目印。サービス工場は一本北側の道沿いにある。